



来仁会 ドキュメント The 舞台裏

第17回

作業療法室「OT-リボーン」の リアルな裏側をお見せします！

当院の舞台裏を潜入レポートする本企画。
今回は特集記事で紹介されたOT(作業療法)の
リアルな現場をご紹介します。

それまでも耳にしたことはあったけれど、なにしろ「作業」である。どんなことだって作業といえそうだし、何を指しているのかよく分からない点で、「食パン」に似たような違和感を抱いていたのも事実だ。
そこで今回は、現役の作業療法士さんたちにお願ひして、その実際を徹底的に見せていただくことにした。

フレッシュな森村さん、駒居さん、田中さんへお出迎え陶芸

約束の時間通り院内の作業療法室に伺うと、出迎えてくださったのは3名のフレッシュな作業療法士さん。
カメラを向けると、御三方それぞれの「映

え」ポーズでフレームに収まってくさる。田中さんはサツと笑顔で、駒居さんはすかさずろくろ回しで、森村さんはろくろ台が無くてもエアろくろで対応される臨機応変っぷりだ。
せっかくなので陶芸から詳しく訊いてみることに。
「どういう工程で作るんですか？」



左から、笑顔の田中さん、ろくろ回しの駒居さん、エアろくろ回しの森村さん

え」ポーズでフレームに収まってくさる。田中さんはサツと笑顔で、駒居さんはすかさずろくろ回しで、森村さんはろくろ台が無くてもエアろくろで対応される臨機応変っぷりだ。
せっかくなので陶芸から詳しく訊いてみることに。
「どういう工程で作るんですか？」



院内に設置されている電気窯(時価70万円)

ちなみに、左端にある薄緑の長細い陶器はバナナケースですか？
森村「いえ、「輪挿しの花瓶です」
食い意地ばかり張って風情のないことでスミマセン……。

上薬には種類がいろいろあって、それぞれ仕上がりの色合いが異なるという。置いてある完成品を見ると、確かにどれも色とりどりだ。



バケツの上薬(釉薬)を混ぜる森村さん

駒居「まずは土をこねて、ろくろ台の上で形を整えます。一週間くらい乾かしたら、それを800度程度で一日かけて素焼きします」
森村「素焼きが終わったら、次は上薬を塗って1200度程度で3日かけて本焼きします。上薬を塗ることでコーティングされ、水気の吸収を防ぐとともに、色付けの装飾にもなるんです」

次に見せてもらったのは革細工。隣のデスクに移動すると御三方、陶芸家から革細工作家へと、瞬く間に早変わりされていた。

誰も知らない革細工

革細工の手順について教えてください。

駒居「まず田中さんがやっているように、革を切り抜いて模様を型押しします。それを液体染料で下塗りした後、ベース染料を塗り込んで防水とツヤ出しを行うのが、いま森村さんがやっている作業です」



切り抜いた革を濡らして、金型で型押しする田中さん

財布などはさらに、周囲を糸で縫ったり、周囲に開けた小さな穴に色吟レースと呼ばれる革紐を巻きつけたりして完成させていく。

ちなみに、作業療法と聞いてすぐ頭に浮かぶのが、この革細工である。どうして革細工なのだろう？

田中「誰も知らないからです」
えっ、どういうことですか？



切り換えが早い御三方(笑)